川崎市育成会手をむすぶ親の会　幸支部

幸通信No.22

発行日　令和元年５月１日

前号で、「平成最後の・・・」と書きましたが、今回は、「令和最初の幸通信」ということになりました。新しい元号、新しい年度、気を引き締めて幸支部の皆様に様々な情報を提供していきたいと思います。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。　（幸支部役員一同）

幸支部新年会（報告）

２月４日（月）さいわい福祉パルで、毎年恒例の「幸支部新年会」を開催しました。

当日は、幸支部会員１０名と、結城会長、美和副会長、梅田会計補佐、安達事務局長の４名が参加してくださいました。また、幸区保健福祉センター高齢・障害課障害者支援係の櫻井係長と、社会福祉法人大田幸陽会の佐藤参与をお招きして、それぞれから、「自立支援協議会」と「それぞれの暮らし方」～グループホームとサービス付き高齢者向け住宅～についてのお話を伺いました。（２ページ、３ページに内容を掲載いたしましたので、ご覧ください。）

「幸支部新年会」は、毎年、２月の初めに幸支部の会員同士の交流や情報交換を主に開催しておりますが、年々、参加者数が減っております。幸区はグループホームの数も少なく、地域生活支援拠点となる機関もありません。そういったことも話し合っていきたいと思います。また、昼食をはさんでビンゴ大会もあります。ぜひ、まだ参加されたことのない方は、足を運んでください。　よろしくお願い申し上げます。　（仁尾　智都子）

新年会のようす

お弁当

当日の資料

「幸区自立支援協議会」について

２月４日の「幸支部新年会」で、櫻井係長（前掲）より、「幸区の自立支援協議会」について、お話をしていただきましたので、お知らせします。今回は、「区自立支援協議会」の一つである「幸区自立支援協議会」について「平成２９年度幸区自立支援協議会まとめ」を資料にお話してくださいました。

櫻井係長

「自立支援協議会」とは

障害者総合支援法の第８９条の３の規定により設けられた機関です。川崎市では、「市地域自立支援協議会」と「区地域自立支援協議会」が連動しながら、障害者総合支援法の目的である「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与する」を達成するために運営されています。

１．構成委員

幸区にある障害者施設、幸区の地域包括支援センター、川崎区にある支援学校、相談支援センター、幸区役所の担当者といった幸区で障害のある人やその家族の支援に取り組んでいる方々で構成されています。

２．体制について

幸区自立支援協議会には、「地域で支える委員会」「つながる委員会」「児童委員会」「相談支援委員会」の４つの専門委員会があり隔月偶数月ごとに１回開催される「定例会」の終了後と必要なときに随時開催しているとのことです。また、「企画運営会議」は毎月開催され、「課題整理ワーキング」「広報ワーキング」を行っているそうです。

そして、これらの活動は「市地域自立協議会」と連動して地域の課題を地域で解決するために、様々な機関と連携したり、地域に住む人と協働したりできるネットワークを構築していく体制づくりをしているそうです。

３．「専門委員会」について

「地域で支える委員会」・・多くの問題を抱えているご家庭を関係機関が連携して支えてたり、うもれている課題を掘り起こしたりしている。

「つながる委員会」・・・ 民生委員・児童委員、相談支援員、ヘルパー事業所などがネットワーク（つながり）を地域につくっていく。

「相談支援委員会」・・・ 幅の広いトータルな支援ができる相談支援のあり方を検討している。

「児童委員会①」・・・・ 児童発達支援、放課後デイサービスなど福祉的なかかわりの必要な児童に対し、福祉と教育を連携させて支援する。

「児童委員会②」・・・・ 父親の社会的経験を子育てに発揮できるようにしていく。

児童から高齢になった障害のある人まで活用できる「幸区地域自立支援協議会」。これから、もっと身近に感じられるようになるとよいなと、思いました。（仁尾　智都子）

「それぞれの暮らし方」～グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅～

佐藤嘉晃 参与

昨年の９月に、「手をつなぐ育成会 関東甲信越大会 川崎大会」の第２分科会「高齢」でもお世話になった 社会福祉法人大田幸陽会の佐藤嘉晃 参与に、『グループホームとサービス付き高齢者向け住宅』についてお話を伺いました。

障害のある人が高齢になり、介護保険サービスと障害福祉サービスを併用して生活を送るという事例も見聞きするようになりました。また、幸区は川崎市の中で最もグループホームの数が少ないとのことです。今回のお話を参考に、みんなで、これからの幸区のグループホームについて考えていけたらと、思います。

１．社会福祉法人大田幸陽会と『ラナハウス西糀谷』について

昭和３１年に結成された「大田区手をつなぐ育成会」を母体に、平成５年３月２５日に**社会福祉法人大田幸陽会**が設立されました。親自身が高齢になってもこの地域で暮らすという思いを形にしたものが**『ラナハウス西糀谷』**で、平成２５年に、**サービス付き高齢者向け住宅**と**障害者グループホーム**を合築した形で開設されたとのことです。

２．サービス付き高齢者向け住宅とは？

平成２３年に、国土交通省と厚生労働省が協働して、住宅政策と福祉政策を連携させた高齢者の住宅を提供することになり、**サービス付き高齢者向け住宅**という形が生まれました。**サービス付き高齢者向け住宅**には、６０歳を超えると住めるようになり、最低限、日中の見守り（安否確認）と生活相談支援をすることになっているそうです。

社会福祉法人大田幸陽会が運営する**『ラナハウス西糀谷』**は、高齢者と同居する障害者や障害を持っている一人暮らしの高齢者などが、地域社会の中で安心して暮らせる糀谷の地に開設され、開設当初から障害を持った高齢の方の入居があるそうです。

３．グループホームについて

社会福祉法人大田幸陽会では、８ユニットのグループホームも運営しています。体験型のグループホーム（男性）もあるとのことで、グループホームでの生活を考えている人が、共同生活、食事、洗濯、金銭管理などの体験を通して、地域生活のイメージを持てるように支援してくれるそうです。１回最長で３０日間体験できるのは、とてもよいと思いました。

また、平成２７年４月より基準が変更になった消防法施行令の「グループホーム等における消防設備の設置義務」により、グループホームとして運営する条件を満たす物件を探すことが難しくなったとのことを伺い、これから、幸区にグループホームを増設していく場合には、そういった設備面も考えなくてはいけないことを実感しました。

障害のあるなしに関係なく豊かな人生を歩むという視点から、「住まい」について考える、大変、貴重な機会を持てました。　（仁尾　智都子）

幸のほっと♥スポット　File１８　多摩川見晴らし公園

前回は「御幸公園」前々回は「矢上川」と、気が付けば幸区の辺縁の紹介が続きました。実は、今回も川崎区との境界に近い幸区の端、多摩川沿いの「多摩川見晴らし公園」です。

とても小さい公園なので、あまり知られていない公園だと思いますが、幸町２丁目の幸町交番のすぐそばにあります。以前はごく普通の河原の土手でした。私にとっては、療育センター時代に、草滑りに来た思い出の場所です。平成１０年に、観光と災害時の緊急物資の陸揚げの役割を担って「水上バス川崎発着場」として、７月から８月の２０日間、１日２回暫定運航していたようです。残念ながら、あまり長く運航されず、その後に現在の公園に整備されたと記憶しています。

今回、取材のため訪れたのは４月初旬、ちょうど桜も見ごろで、交通量の激しい道路のそばなのに、思いのほか静かでした。元船着き場だけあって川辺のすぐ近くまで下りられるのですが、豊かな水量でゆったりと流れる多摩川の水はこんなに青くて美しかったのかとちょっと感動してしまいました。また、高層ビル群の彼方に広がる青い空と白い雲、そして羽田空港から飛び立つ旅客機、鉄橋を行き来する電車は、ＪＲ東海道線と京浜東北線、京浜急行と、まさに「見晴らし公園」の名にふさわしい景観です。岸のすぐそばまでつがいの水鳥が泳いでいるのを見て微笑ましい気持ちになりました。ただ、以前は東京タワーも見えたのですが、見つかりませんでした。私が方向音痴のせいなのか、大田区の高層マンションの影になってしまったのかは定かではありませんが…。

さて、普段はこのようにとても静かなこの公園ですが、１年で一番賑やかになるのは、８月１５日だと思います。この日は毎年、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」が開催されるからです。この花火は、対岸の大田区の河川敷で打ち上げられるので、川崎側からも見ることができます。羽田空港の航路の関係から、通常の花火より打ち上げる高度を低くしているため、大空一杯に広がった花火が降り注いでくるようで迫力満点です。ちなみに、昨年は午後７時３０分から８時１０分の間に、約 6000 発打ち上げたそうです。花火大会当日は、夕方からバスも迂回運転をするくらい見物客で混雑するのですが、普段は静かでゆっくりできる公園です。５月の気持ちの良い日に、多摩川の土手を散歩してみませんか?　　（髙山　君子）